

きっかけ

飯塚支部 飯塚県土整備事務所 松尾菜央

私が飯塚県土に来てあっという間に半年が経ちました。失敗も沢山あり、その分学んだことも沢山あります。初めのうちは出来なかったことが出来たりとわずかではありますが、成長できたところも感じています。

相変わらず仕事には不慣れですが、立派な人材となるよう自分なりに一生懸命努力している次第です。

社会人としてもまだ半年しか経っておらず、悩むことも多々ありますが、以前からの夢であった土木行政に携わっていることはなにより嬉しいことだと思っています。

ということで、私がなぜ、公務員として土木行政に携わろうと決めたか書きたいと思います。

周りの友達の夢は「学校の先生」だったり、「医者」「スポーツ選手」といったものが多かったと覚えています。その頃の私は大した夢もなかったのが正直なところでした。

そんな私が小学6年生のとき、「なりたい職業」という題材で職業紹介をする機会がありました。何でも良かったのですが、せっかくなら他の人と違う職業を選択してみようと思ったのが「建築家」でした。調べていく中で工業系の職業に惹かれ、中学校を卒業したら工業高校に進学したいと思うようになりました。

中学を卒業して私は、工業高校に進学しました。科目は「土木科」です。もともと「建築科」を考えていましたが、オープンスクールで土木科長の「土木はスケールの大きな仕事に携わり、多くの人々の生活の役に立つ」という言葉を聞いて、素直に「カッコいい！自分も携わってみたい！」と思ったからです。当時の私には衝撃的でその時の一言を今でも覚えています。

高校2年生が終わる頃、進路希望の調査がありました。入学し、はじめのうちは民間に就いて主に現場で活躍すべきか、と考えていましたが、これからの土木業界にとってインフラ整備が欠かせないものとなり、つくる技術より今まであるものを守っていく技術がより、必要ではないかと考え、それに密接に携わることの出来る公務員を目指すことにしました。

以上が公務員として土木行政に携わろうと決めたきっかけです。

小学6年生のときの職業紹介がなければ、高校の土木科長の言葉がなかったら、別の進路を選んでいたら今と別のことをしていたことでしょう。ですが、以前から積み重ねていった目標のおかげで土木技術者として多くの人々の生活になにかしら貢献できているのだと思うとほんとに良かったな、と実感します。そして、これからも精進していきたいと強く思います。